

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、全国の平均正答率と比べると、国語は-10.8%、算数は-6%、理科は-10.1%となっている。  
 ○記述式の問題に課題がある。無回答も多い。粘り強く取り組む態度、基礎学力の向上、学んだことを生活に生かす態度を養う必要がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○課題に対して、児童一人ひとりが自分の考えを確実にもつために、導入や発問を工夫する必要がある。  
 ○児童同士の交流の際に、視点を明確にもたせる。また、低・中・高学年で身に付けるべき話し合いの際の資質・能力について教師が理解し、系統性を踏まえた指導をする。  
 ○学習したことを、身近な生活に結び付けられるような活動を取り入れる。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

ルールの遵守状況 について、子どもたちと一緒に振り返るとともに、「板橋区授業スタンダード」を徹底した授業により「めあて」・「ふりかえり」を習慣化する。  
 教科書の徹底した活用 及び教師の吟味した発問や説明 により「読み解く力の育成」を図る授業を習慣化する。  
 「読み解く力の育成」及び「板橋区授業スタンダード」を基盤に、「振り返りの質の充実」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図り、学習・生活の一層の充実につなげる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
読み解く力の育成	授業終盤における「振り返り」の徹底	児童が学びを「つなげる」授業の実施
○文章を正しく読み、意味を理解し、自分の考えを形成・表現していく力を児童に身に付けさせるために、教科書を分析し、最重要のテキストを確実に押さえられる授業展開を行う。	○振り返りの時間を確保するために、授業の構成・教材研究の実施。 ○振り返りの視点を児童へ提示する。 ○次時につながるような振り返りについては、他の児童に紹介する時間を設定する。	○個人で考えるか、友達と学び合うか児童が選ぶ時間を設定する。 ○グループ学習や集団検討の際、「繰り返しの発表」「付け足しの発表」「問い返し」ができる力を育成する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「板橋のiカリキュラム」を円滑に実施するための教育課程を編成する。 ○学校の積極的な公開や地域行事への参加を通して保護者、地域の方との連携を図り、児童が様々な人とのかかわりの中で、学校や地域への愛着を育む。（郷土愛） ○「保幼小中一貫環境教育カリキュラム」をうけ、地域人材の活用や近隣の環境に関する学習の充実、環境教育テキスト「未来へ」の活用を通して「環境についての感受性と共成や思いやり心」、「環境に対する見方・考え方」、「環境に働きかける実践力」を段階的に育成し、環境教育を推進する。（さくら草の栽培、ゴミの学習等） ○総合的な学習の時間では、児童一人ひとりが自己課題をつかんで探究し、児童の生活と結び付いた環境、福祉、地域、文化、国際などの題材を取り入れた学習の視点を設定する。	○9年間の系統的・連続的な指導計画に基づいた教育活動により、学力向上を図る。 ○第3学年から教科担任制を実施することで、他クラスの児童理解を深め、様々なサポートを学年対応につなげ、校内支援体制を充実させていく。 ○保幼小のスムーズな接続を目指し、1年生と若木保育園等の近隣幼稚園・保育園との交流会を実践する。 ○1年生入学当初におけるスタートカリキュラムを編成し、合科的・関連的な指導の工夫や弾力的な時間割を運用することで、児童が安心して小学校生活を過ごせるようにする。 ○単元配列表を活用して、各教科と体験や実技を伴う教科等のカリキュラムマネジメントを生かして実践していく。	○児童が一人一台端末や情報通信ネットワークなどの情報手段を活用し、個の学びの充実をより図れるよう指導方法を工夫することに努める。 ○家庭学習や自主学習等で一人一台端末の有効活用をするとともに、情報教育安全指導年間計画に沿って、学年や実態に応じた指導を行う。 ○考えて行動する「考動」を基本とし、学びのエリアでの情報共有等を通じた生活指導・学習指導により、小中の接続を円滑にする。 ○基礎・基本の定着のために、一人一台端末ですらら等を積極的に活用し、個別に最適化された課題に取り組む。 ○情報教育安全指導年間計画に沿って、学年や実態に応じた指導を行う。



